

平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	えひめだいがくふぞくこうとうがっこう				②所在都道府県	愛媛
27～31	①学校名	愛媛大学附属高等学校					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	学科名：総合学科	
総合学科	120	118	116		354	354名	
⑥研究開発構想名	伊豫の学びから世界の学びへ ～ グローカルマインドを持ったグローバル人材の育成 ～						
⑦研究開発の概要	<ul style="list-style-type: none"> ○グローバル人材の育成に資する課題研究を中心としたカリキュラムの開発・実践 ○大学や企業、海外の協定校等と連携したカリキュラムの開発・実践 ○地域の課題と世界の課題との繋がりを理解し、生徒自らが設定した課題に失敗を恐れずチャレンジする精神の育成を図るカリキュラムの開発・実践 ○本取組を広く公開し、グローバルな視点で社会課題を解決することにより地域社会の発展を支える人材育成の拠点校としての役割遂行 ○全教職員が主体的に取り組む組織作り 						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>本校の目指すグローバル人材とは、地域の課題と世界の課題を統合的に捉えるグローバルな視点を持ち、社会課題に対して失敗を恐れずに挑戦し続ける人材を指す。そうした人材は、論理的な思考力、コミュニケーション能力、課題追究能力を兼ね備えている必要がある。そこで、グローバル化を推進する愛媛大学や地域にあってグローバルな展開をしている企業などと連携し、新たな教育プログラムの開発・実践を行っていくことを目的とする。</p> <p>生徒に身に付けさせたい力は次の四つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○課題を発見し立ち向かう力 ○多様な価値を理解し対話する力 ○論理的に思考し判断する力 ○知識や技能を適切に運用する力 <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>愛媛大学附属である本校では、愛媛大学の海外研修プログラムに強い関心を持つ生徒が多い。今年度に限ってもSGHアソシエイト校として、「韓国語・韓国文化研修」、「国際平和デー・サクラメント市派遣」、「KAKEHASHI Project」、「地球の歩き方海外ボランティア」など、多数の生徒が海外研修を行った。この他、ルーマニアのイオン・クレアンガ高校と国際交流協定を締結し、インターネットのテレビ電話を利用して交流した。また、生徒の学びの質を高めるために、1年次から論理的な思考力、コミュニケーション能力、課題追究能力の育成も図っている。</p> <p>しかし、海外への関心と基本的な学力との有機的な関連付けに課題が残っている。そこで、新たな教育プログラム実践によって、1年次からの地域の学びや海外研修の体験が、3年次に実施している「課題研究」と体系的な連関を持ち、グローバルな視点から「課題研究」を深化させる可能性が担保できると考える。さらに、多くの生徒を海外の研修や留学に参加させると共に、海外から留学生を受け入れることが可能になる。そして、多くの海外の人々と関わることにより生徒の好奇心を刺激し、論理的な思考能力やコミュニケーション能力をさらに磨きをかけることが可能になる。</p>					
		(3) 成果の普及					

		<ul style="list-style-type: none"> ○本校主催により「課題研究成果発表会全国大会」を開催 ○全国のSGH校と連携 ○本校のホームページ（英語版も含む）への掲載 ○マスメディアの活用
<p style="text-align: center;">⑧ -2 課題研究</p>		<p>(1) 課題研究内容 研究テーマは、グローバルな視点に立ち、主として社会課題に関わるものとし、各人で興味関心に応じた課題を自らが設定する。</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 グローバル人材を目指す新科目 1年次：「伊豫学」（2単位）、「地域の産業」（3単位） 2年次：「グローバル・スタディーズ」（2単位）、「異文化理解」（1単位） を開設し、各科目においてICTを活用したアクティブラーニング、PBLを積極的に取り入れ、生徒の自発的な学びを促進する。 3年次：「課題研究」では、愛媛大学の各学部教員から提示されたキーワード（例：＜法文学部総合政策学科＞日本の貧困、現代政治、法と裁判等）を参考に、グローバルな視点から一人一課題（例：「世界の子どもの貧困～教育～」，「国際社会における法と裁判～裁判員制度と陪審員制度～」等）を設定し、大学教員と本校教員の指導の下、関係機関等と連携して研究を進める。生徒の学習効果の検証評価については、研究発表会、レポートにより評価する。 本プログラムの評価については、有識者による外部評価委員会の意見書や、学校評議員、大学関係者、保護者によるアンケート調査を取り入れる。英語検定、日本語検定、プレゼンテーション力検定等による定量的な評価も参考にする。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 ○総合学科原則履修科目「産業社会と人間」非開設 ○学校設定教科「グローバル・エデュケーション」新設 1年次：「地域の産業」，「伊豫学」新設 2年次：「グローバル・スタディーズ」，「異文化理解」新設</p>
<p style="text-align: center;">⑧ -3 上記以外</p>		<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価 3年次に「リベラル・アーツ」を開設し、高等学校の教育課程の枠にとらわれず、幅広く専門性の高い知識に触れることで、学びに対するモチベーションの向上を図る。 生徒の相互評価、大学教員の評価を受け、高校教員による総合評価を実施する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 科目「リベラル・アーツ」新設</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の取組内容・実施方法 愛媛大学国際連携推進機構の支援を得て、いつでも世界と繋がることのできる「国際交流ルーム」を新設する。また、「SUIJI」（日本・インドネシアの農山漁村で展開する6大学協働サービスラーニング・プログラム）に積極的に関わり、国際的なサーバント・リーダーについての理解を深める。非常勤の国際交流アドバイザー導入により、円滑に海外との交流がおこなえる環境を整備する。</p>
<p style="text-align: center;">⑨その他 特記事項</p>		<p>本校は、国立大学附属学校の使命を果たすため、主幹教諭を長とする研究部を中心とした教育研究体制を組織し、教育委員会を通して県下の高校に周知し、愛媛大学の協力を得て研究会を定期的に開催するなど、恒常的に教育研究活動を行っている。</p> <p>設立以来7年間にわたり高大連携による課題研究を実施しており、生徒の主体的な学びや進路選択に関する分析・評価を行うことにより、継続的に改善を図っている。その実績については、県下の中学校や高校からも注目され、高い関心を持たれている。</p> <p>なお、本校をモデルとする愛媛大学の高大接続のプロジェクトは、平成26年度の大学教育再生加速プログラムに採択されている。</p>

ふりがな	えひめだいがくふぞくこうとうがっこう	指定期間	27～31
学校名	愛媛大学附属高等学校		

平成27年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
a	SGH対象生徒:							360人
	SGH対象生徒以外:		36人	45人				
目標設定の考え方: 自らの生活する地域だけでなく、海外の様々な地域の社会課題について、解決に向けて追求する取組を通じて、ボランティア活動や自己研鑽活動に生徒全員が自主的に取り組もうとする意識を持つことを目標とする。								
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
b	SGH対象生徒:							170人
	SGH対象生徒以外:		15人	38人				
目標設定の考え方: 現在も、学校が提供する海外研修に対する応募者は、全校生徒の約3割で、倍率は5倍を超えている。このような留学や海外研修に対するモチベーションの高さを、全校に波及させることを目標とする。								
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							80%
	SGH対象生徒以外:		12%	20%				
目標設定の考え方: 海外研修等の経験を通して、全校生徒の8割以上が高等学校在学中または、大学進学後に留学したいと考えるとともに、生徒全員が地域のために、国際的に活躍したいと考えることを目標とする。								
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
d	SGH対象生徒:							20人
	SGH対象生徒以外:		4人	7人				
目標設定の考え方: 現在も、課題研究を初めとする各種プロジェクト学習の成果等の応募により、入賞を果たしている。さらに取組の内容を充実させるとともに、積極的に大会応募を行い、入賞者数の増加を図ることを目標とする。								
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
e	SGH対象生徒:							60%
	SGH対象生徒以外:		20%	23%				
目標設定の考え方: 誰とでも臆することなく日常会話ができ、プレゼンテーションができるだけでなく、6割以上の生徒が海外の高校生や大学生とグローバルな社会又はビジネス課題について、討論できる英語力を身に付けることを目標とする。								
(その他本構想における取組の達成目標) 学習に対する高いモチベーションや課題発見・解決能力を身に付ける。								
f	SGH対象生徒:							100%
	SGH対象生徒以外:		90%	90%				
目標設定の考え方: 本校は既に平成20年度より、教育理念に「学びに対する高いモチベーション」を、教育目標に「自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に判断して問題を解決する」ことを掲げている。これまでの取組をさらに充実させることを目標とする。								

1' 指定4年目以降に検証する成果目標

		25年度	26年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	目標値(34年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合									
a	SGH対象生徒:								90%
	SGH対象生徒以外:	60%	60%						
目標設定の考え方:国際化を推進する愛媛大学へ7割以上の生徒が進学するとともに、これまでと同様に国内外のグローバル人材育成に重点を置く大学への進学者を2割以上輩出することを目標とする。									
海外大学へ進学する生徒の人数									
b	SGH対象生徒:								3人
	SGH対象生徒以外:	2人	1人						
目標設定の考え方:本校は、改組後4年間で、海外大学への進学者4名を輩出している。高校における留学をきっかけにする等により、毎年3人以上の生徒が海外大学へ進学することを目標とする。									
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合									
c	SGH対象生徒:								100%
	SGH対象生徒以外:	85%	85%						
目標設定の考え方:平成22年度から実施している高大連携による課題研究は、大学の専攻分野選択を自らの興味・関心と適性に応じたものにするを目的としている。これをさらに充実させ、全員が適切な進路選択を実現することを目標とする。									
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数									
d	SGH対象生徒:								30人
	SGH対象生徒以外:	3人	2人						
目標設定の考え方:現在も、本校在学中の海外研修や留学の経験がきっかけとなり、大学進学後に留学している者も少なくない。より多くの生徒が本構想により、大学で留学、研修に参加する意欲をもつことを目標とする。									

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	目標値(31年度)
課題研究に関する国外の研修参加者数								
a	15人	25人						160人
目標設定の考え方:これまでの海外研修は、直接的に課題研究に関わるものではなかったが、本構想においては、課題研究に繋がることを目的とした海外研修を実施するだけでなく、海外研修等を中心とした課題研究の取組も行うことを目標とする。								
課題研究に関する国内の研修参加者数								
b	116人	119人						360人
目標設定の考え方:現在も、毎年愛媛大学において開催される研修会や国際シンポジウム等に学年全員の生徒が参加している。本構想においては、全校生徒が学内外を問わず、積極的に研修会等に参加し、課題研究へと繋いでいくことを目標とする。								
課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数								
c	2校	2校						10校
目標設定の考え方:現在も、複数の海外大学・高校等と連携・交流を行っているところであるが、本構想においては、持続可能な連携を行うために、国際交流協定や姉妹校協定を締結することにより、課題研究実施のための連携を行うことを目標とする。								
課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
d	1838人	1838人						2200人
目標設定の考え方:改組後の平成22年度より全生徒が高大連携による課題研究を実施してきている。本構想により、内容の充実を図るとともに、留学生・大学院生との共同研究等も取り入れ、取組の幅を広げていくことを目標とする。								
課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)								
e	15人	15人						120人
目標設定の考え方:既に課題研究の一部において、愛媛大学に開設されている企業の寄付講座研究員の協力を得ているところである。今後は、NGO、県や市の担当課など地域のステークホルダーの協力も得ていくことを目標とする。								
グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数								
f	125人	125人						360人
目標設定の考え方:今年度「ビジネスプラン・グランプリ」に出場し、2チームが入賞するなど、既に取組の実績はある。本校主催によるSGH課題研究発表会全国大会の開催を計画しており、全校生徒がこのような大会に参加することを目標とする。								
帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)								
g	1人	1人						6人
目標設定の考え方:改組後の数年間にわたり、積極的に留学生の受入れを行ってきており、常時留学生が居るといふ環境にある。来年度は帰国生徒の受入れも予定している。今後受入れ者数増加に対応できる体制作りを行うことを目標とする。								
先進校としての研究発表回数								
h	2回	2回						3回
目標設定の考え方:改組後の平成22年度より、全国に公開し、高大連携による課題研究発表会を年2回開催している。今年度はSGH校からの多数の参観者があり、既に先進校としての発信を行っている。今後さらに充実させていくことを目標とする。								
外国語によるホームページの整備状況								
○整備されている △一部整備されている ×整備されていない								
i	×	×						○
目標設定の考え方:本構想の予算措置を受け、外国語によるホームページの整備を行い、広く本事業の取組を公開する予定である。これによる海外の学生や生徒との交流の拡大や、留学生受入れ者数の増加が目標である。								
(その他本構想における取組の具体的指標)本校主催の「課題研究成果発表全国大会」への参加校数								
j	0校	0校						80校
目標設定の考え方:高大連携による課題研究先進校として、課題研究の取組の仕方だけでなく、発表会実施のknow-howについても発信するという役割を果たすためにも、本校主催により「課題研究成果発表全国大会」を開催し、参加校数80校を目標とする。								

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
全校生徒数(人)	359	355	359	360	360	360	360
SGH対象生徒数			121	240	360	360	360
SGH対象外生徒数			238	120	0	0	0